

研究の背景・目的

本校で設定している教育課程のうち科目「課題研究」では、地域の諸課題を解決することを通じて、考察する力を養うとともに、実践的・体験的な学習を目指しています。そして、本校森林科学科では全4つの専攻班のうち令和2年度から「木育専攻班」を立ち上げ、「木育」という手法を活用したプロジェクト学習を行っています。

本研究の柱は、2004年に全国に先駆けて北海道から始まった「木育」を広く地域に広めていきたい、との願いから、人々の暮らしに「木」を利用・活用する機会があれば、高齢化や担い手不足が著しい林業従事者の構造改善に繋がるのではないかと考えています。

今年度は、岩見沢市内にある保育園との連携強化をうとともに、同じ空知地域との木育に関わるコラボレーション教材の開発に挑戦しました。

研究の内容・成果

第1 岩見沢市内にある保育園との連携を通じた体系的な木育プログラムを確立しよう

社会福祉法人めぐみ学園日の出保育園との連携は6年目を迎え、木育を通じた自然体験活動の教育的効果の高さは「教える側」の高校生と、「教わる側」の園児双方にメリットがあると手応えを感じています。

そして今年度は今までの活動を発展させ、より園児が主体的に取り組むことのできる木育プログラムの活動を実践しました。

<第1回>

ヒノキ単板の名札づくり&トマツの積み木遊び

地元・岩見沢市の「日の出保育園」と連携し、幼児期における「原体験」の提供を行っています。森林科学科の3年生が主体となり、企画から運営までを行うこの活動は、生徒にとっても貴重な学びの場となっています。

ヒノキの単板を使ったネームプレート製作では、やすりで削った瞬間に広がる香りに、「いい匂い！」と驚く子供たちの姿が印象的でした。五感を使って木に触れることで、「木は身近で楽しいものだ」という意識の種をまいています。



写真1 第1回体験活動の様子

<第2回>

自然生態を学びながら木育に落とし込む

保育園へ出向く出前授業も行っています。テーマは地域課題でもある「ヒグマ」です。クイズ形式で楽しく生態を学びながら、森でのマナーを伝えます。木育とは、利用するだけでなく、自然界のルールや野生動物との「共生」を学ぶ場でもあるからです。

締めくくりとして、空知総合振興局と連携した「マイ箸づくり」を行いました。北海道の多様な樹種を使い、カンナで削る体験を通じて、木ごとの硬さや色、香りの違いを体感してもらいます。自分で作った箸を使う喜びを通じて、日々の暮らしの中で木への愛着を深めてもらう狙いがあります。



写真2 第2回体験活動の様子

第2 「産・官・学」が一体となって地域で木育に触れる場面を創出する。

実践の第二の柱は、外部機関との高度な連携です。行政のバックアップに加え、「株式会社YOKI」様などの専門家からアドバイスをいただき、「産・官・学」が一体となった体制で、質の高い教材開発に挑みました。その成果の一つが、「無印良品 岩見沢店」様とのコラボレーションです。北海道を象徴する「シラカンバ」の白い樹皮を雪に見立てた「クリスマスツリー作り」を企画しました。未利用資源にアイデアを加え、新しい価値ある商品へと変える。「企画力」と「提案力」を実践の中で磨きました。



写真3 イベントの様子